

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人 長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家(2ユニット合同)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成26年10月22日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102361-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは11月で開所10周年を迎えます。開所より変わらない管理者の指導の下、新たに、若いスタッフが加わり活気あふれるホームへと変わりつつあります。職場の雰囲気がよく、職員同士、常によりよいサービスを検討し、提供することで、ご家族様からも厚く信頼を頂いており、また地域と良い関係を築けているおかげで近所の方から散歩中に、声をかけてもらえ、旬の野菜を頂くことも多いです。皆でアイデアを出し合い作る、入居者様の共同作品は見応えがあり、四季折々の様々な作品は、チームワークの良さが感じられ、心温まります。当ホームにお越しの際は、ぜひご覧下さい。これからも、皆様に愛されるホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

10年という歳月に事業所理念も“コスト意識の浸透”から“運営推進会議がもたらす地域の輪、へと拡がり、本年は“地域 職員 入居者 三者で作る四つ(和 輪 我 吾)”と定め、心新たに邁進しています。平屋の造りを活かし18名全員が1ユニットに集うレクリエーション活動が日課となって、「ちょっとお隣さんへ」の気分転換にも奏功し、どの利用者の表情も穏やかです。リスクが多く、また状態観察の鍵となる入浴時間の職員配置を手厚くすることで異常の早期発見に繋げるなど先輩職員を見習う機会も多分にあり、入居時流動食だった人が10年経過した現在も歩行を維持できていることがチームケアの証となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた理念を掲げ達成された時はまた新に新しい理念を掲げ、その目標に向かって前進している	本年は見直しを図り、事業所独自の理念を掲げて達成度や現状に合わせて作り変えています。職員総意で決定した『地域 職員 入居者 三者で作る四つの把(和輪我吾)』は玄関に掲示されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設10年を迎え地域に溶け込んでいる 地域の敬老会、神社の祭典に招待されたり、地域の方々より野菜や果物もいただけるようになった	日常的に野菜の差入れがあり事業所夏祭りや運動会、防災訓練にも駆けつけてもらえる関係にあります。花笠会、フラメンコ、ハーモニカボランティアが定期的に来所し利用者による「歓迎」の横断幕作りも力が入ります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開かれた施設を目指し、いつでも気軽にホームを訪ねてもらえるような雰囲気づくりを心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長さん、民生委員さんには運営推進会議などで、親交を深めている 特に災害時での相互の協力体制はできている	区役所、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員をメンバーに定期開催しています。外出先の公園トイレ整備の提案や、地域福祉の疑問点を解決する場として活用されていることを議事録から確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の南区役所との関係はうまく築けていて、分からない事を教えていただいたり、指導して下さい	わからないことには電話でも丁寧な対応がもらえ、運営推進会議には市が主催する出前講座を依頼して協力関係を築いています。毎月訪れる介護相談員は散歩やレクにも同席して利用者の様子を把握しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員全員が理解している 玄関の施錠については必要に応じ臨機応変に対処している	法人研修課程に基づいて学び、フィジカルロックへの理解はできています。単独外出をきっかけに職員が一人になる時間帯はやむを得ず施錠していますが、出かけた気持ちに寄り添ったり施錠がもたらす弊害を常に会議で話合っています。	抑圧感のない暮らしについて今後も随時話し合いの機会が持たれることを期待いたします。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束間マニュアル等があり、その都度研修し職員の自覚を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用された方があり、その方を通じて後見人制度に対する知識も深まってきたが、学ぶ機会があれば積極的に参加していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明しており質問はいつでも受け付け誤解の無いようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、食事会などを開き要望や意見を聞く機会を設けている	本年は滞っていた家族会を再開し、レクリエーション見学と昼食を交え午後には個々の家族と面談を行いました。人前では話せない相談にじっくり耳を傾ける場となり不安を抱える家族の支えにもなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員参加の「双葉会」で意見や提案を聞く機会を設け、問題が発生すればその都度対応している	“双葉会、”と名付けた定例会には法人の地域責任者も出席しています。レク、公用車、給食、防災は各担当を割り振り、夏祭りや運動会行事には全職員が協力して企画実施する力強い風土があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、自愛と包容力があり、職員の長所短所を把握して長所を伸ばす働きかけをしている 職員も向上心があり、スキルアップに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の勉強会を開いている 研修に参加するため勤務の調整をし、参加できる環境を整えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換留学制度があり他施設との交流も増えてきている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の性格や、今の気持ちを聞き安心して生活出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が安心して暮らしていけるように家族の要望等に耳を傾けながら、相互の信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「ここでどのような生活を送りたいのか」を聞き、それに沿った介護計画を立て実施している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんは人生経験の豊かな方である事を職員は良く理解しており、尊敬の念を持って接することを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等を利用し、本人の様子や生活状況等をお話している 月1回「双葉たより」を発行し、行事予定や近況報告をお知らせしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の生活習慣が途切れることの無いように、好む事をしていただいている(例えば花の水やり、畑の収穫草取り、洗濯物たたみ、食器拭きなど)	畑に慣れ親しんだ人からは土作りや植え方、育て方まで指南があり草取りにも精を出しています。神社への散歩が日課だった人の継続支援や、「ここが家だから」と言い切るほど双葉の家が馴染みになっている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日2ユニットが一緒になり、体操、歌 散歩、ゲーム等に取り組み孤立することの無いように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族の方が知人など紹介してくれ入居に至ったこともあり、良い関係を保っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを通じ入居者本位のサービスを行っている	「どんなお仕事してたの」と隣に座って交わす何気ない会話から導き出される言葉に想いを掴んでいます。意思の表出が困難な利用者には様々な場面でのアプローチで得る表情や行動で気持ちを推し量っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの暮らしぶりを聞き、職員で情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の連携を密にし、情報を共有することで、一人一人の現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすために、入居者本位の介護計画を立て、家族、協力医と相談しながら、実行している	申し送りノートと記録を基に本人や家族の意向を反映してケアマネージャー、計画作成担当者がプラン化しています。ユニット合同での活動が多いことからケア統一のため全職員が集う定例会での話し合いを重視しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、申し送りノートを利用し、カンファレンスを開き情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人に沿ったサービスを心がけている(買い物付き添い、散歩など)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社にお参りする事を日課にしている方もあり、散歩時には地域の人に声をかけていただき野菜や、果物をいただくこともある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況の変化に心し家族、主治医、職員それぞれの立場で本人にとってより良い医療がうけられるように支援している 訪問看護師も適切なアドバイスをしてくれる 紹介状を持って家族、職員、本人と専門医に受診することもある	現在は全員が協力医に変更しています。受診ではあらかじめ必要な情報を整理して担当職員が付き添い、結果は経過記録に記録して共有しています。入浴時の状態観察が異常の早期発見に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問介護では、情報を共有し医療の立場から適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が入院したり、他の施設に移る場合は、病院や、施設の相談員と情報交換し、安心して治療が受けられるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「家族会」「双葉だより」を利用し、本人の状態を理解してもらっている 状態の変化があれば、その都度、家族、協力医ともよく話し合い次のステップに進むように対応している	契約時と家族会で終末期について説明していますが「その時にならないとわからない」との声が多く、食事が摂れなくなった時点での相談としています。現在該当する人もなく、小さな状態変化でも必ず家族に伝えており、緊急時の対応は全職員が心得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には緊急対応マニュアルがある 新しい職員も消防署主催の救急救命講座に参加することを考えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回入居者、職員全員参加で避難訓練を行っている 地域の皆様も協力的である	訓練には呼びかけが実って近隣から数名の見学があり、10年来のおつきあいでは「いざという時はお願いね」との会話が普段から交わされています。発災時は避難地まで逃げずに事業所内で待機することになっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない様に、排泄のことなどは、居室でお話させていただいている やさしく声かけし、納得するまで、ゆっくりお話を聞くようにしている	目上の人として敬う気持ちを忘れず入室には断りを入れる、排泄の失敗はさりげなく誘導することを守り、入浴や夜勤に同性介助を希望する場合は勤務シフトを調整しており、法人から届く訓示を忠実に反映しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな衣服を選び着用したり、散歩なども、体調に合わせてコースを選んでもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できないことが増えないように、声かけ、励ましを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容業者に好みの髪型に整髪してもらっている 衣類は季節に合った物を選んで着ている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、職員と一緒に楽しみながらやっている 食器拭き、片付けなど、出来る事はやっていたい	言所に立つことが困難になってもテーブルで出来る皮むきや食器拭きで家事の継続をサポートしています。日曜日は手作りの日としてカレーやぼた餅などのリクエストに応え、畑で採れた野菜が食卓に登場する日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は介護記録に記入している 持病のある方は、協力医の指示に従い、常食、お粥、ミキサー食とその人に合わせなるべく自分で食べることが出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後その人に合ったケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている「いつまでもトイレで排泄」を心がけ、職員間で話し合い、その人の状況を把握しながら、自立に向けた支援を行っている	コスト意識を徹底し「オムツは使わない」という利用者の立場に立った信念を貫いています。またどうしたら濡れずに済むのか、誘導のタイミングを探りパッドも使わない方法を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて排泄の状態を観察し、飲食物、運動(身体能力に応じた散歩など)ストレスをためない工夫をしている 主治医とも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には、バイタルチェックをし、入浴をゆっくり楽しめるように気を配っている 身体の状態を観察する機会であるので、異常の早期発見に努めている	各ユニット交代で一日おきの入浴とし、また浴室・着脱に複数の職員を配置して皮膚や健康状態観察に重点を置いています。安全と安心が一体となり2～3人が入れる広い浴槽が一人占めできる至福の時間です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週3回以上入浴していただいている 本人の希望により、毎日でも入浴出来る 本人に合わせ冷暖房の調整をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師より、薬の説明を受けている 確実な服用と誤飲の無いようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーション、散歩、ぬり絵、はり絵、食器拭き4など、その人に合ったことが出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足、外食等の計画を立て、戸外へ出かけている 家族にも協力していただいている 戸外への散歩は日課となっている	建物周辺と20分程の散歩コースがあり、個々の買い物にも徒歩で出かけています。桜、ひまわり、秋桜といった季節の花見や回転寿司、遠足の他、年に一度全員での外出が恒例行事となっており、本年は浜名湖館山寺までのドライブとホテルでの食事を予定しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時、買い物時支払の出来る方は自分で支払ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかける手伝いをし、自分で、要件を伝えてもらっている 自分で携帯電話を持っている方もあった		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事毎の写真を玄関ロビーに掲示している 花や野菜を植え季節感を楽しんでいただいている サツマイモ掘り時には、数当てクイズや、重さ当てクイズをして、収穫を楽しみにしている	富士山や桜、紅葉と季節ごとにお花紙を使った壁いっぱい作品がお目見えしています。 5Sが行き届き整然とした脱衣所は快適で、掃除機や濡れモップ、消毒剤と管理者による厳しいチェックにより徹底した清掃が行われ 去年は感染症も出ていません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者さん同士で、会話やゲームを楽しんでいる レクを通じて18人が一緒にいる機会を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、筆筒、仏壇、衣装ケース等を置くこと によって居室が自分の家であるように工夫している	位牌も持ち込まれその人らしい暮らが視えます。 立位が不安定になったり、物への混乱が生じている時にはベッドを移動したり調度品の整理を行います が状態が落ち着けば元に戻し居心地よい環境を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、館内には、手すりがある 起き上がりが安全に行えるようにベッドには手すりをつけてある 場所が分からない人には、扉に絵を貼ったりと工夫している		